

③⑧ 新宿御苑 皇室の庭園から国民庭園へ 大都会のオアシス

【概要】

新宿門をスタート、左まわりに、英国式・フランス式庭園・温室を見た後、桜園地・もみじ山・日本庭園に。桜は苑内各所に、秋の菊花壇展は日本庭園で。母と子の森は、自然豊か。

【森林の特徴と見所・歴史文化】

新宿御苑は、広さ 58.3ha、その歴史は、徳川家康が天正 18 年（1590）に豊臣秀吉から関八州を与えられた時にさかのぼる。家康が江戸城に入城した際、譜代の家臣であった内藤清成に授けた江戸屋敷の一部です。東は四谷、西は代々木、南は千駄ヶ谷、北は大久保に及ぶ広大な土地で、後の甲州街道や青梅街道になる江戸から西に延びる街道と、鎌倉街道が交差する要所であった。明治に入り、明治 5 年（1872）牧畜園芸の改良を目的とした「内藤新宿試験場」が設けられた。この時代、多くの技術改良、内外樹木・果樹等の研究もおこなわれ、明治 10 年（1877）には、栽培植物数も 3,000 種を超えている。同年、110 平方メートルの西洋式温室が完成している。その後、明治 39 年（1906）に宮内庁の所管になり、皇室の庭園となり、戦後、昭和 24 年（1949）に国民公園として一般に公開された。

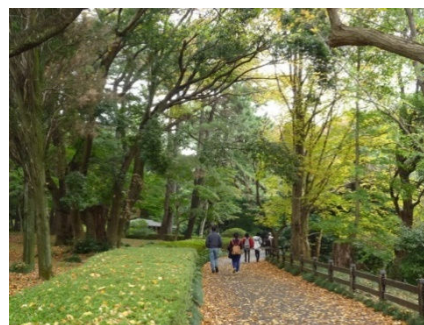
新宿御苑の樹木は、250 種、2 万本と言われて

おり、巨木登録は 171 本。江戸時代からの古い歴史をうつす巨樹・古木のほか、ヒマラヤスギ・ユリノキ・モミジバズカケノキなど、わが国最初に取り寄せ栽培した樹木など、多種多様な樹木が苑内にはある。また、母と子の森周辺には、武蔵野の里山の面影を残す雑木林があり、身近な自然を楽しむ、自然観察フィールドにもなっている。新宿御苑の庭園は、イギリス風景式庭園、フランス式整形庭園、日本庭園をたくみに組み合わせた形で、日本における近代西洋庭園の名園である。日本庭園では、秋に「菊花壇展」が開催されている。また、苑内の桜・紅葉も見事なもの。新宿御苑の大温室の歴史は、明治 10 年（1877 年）に始まった。洋ランの交配に力を入れている。平成 24 年（2012 年）に全面的な建て替えが行われ、絶滅危惧種の保存、展示も行う環境配慮型の温室に生まれ変わっており、一見の価値がある。他にも、苑内には、歴史的史跡も多く、色々な形で楽しめる大都会のオアシスである。



【コース紹介】

インフォメーションセンターのある新宿門①からスタートして、左回りに、旧洋館御休所～大温室②を見学。玉藻池を通り、イギリス風景式庭園③・フランス式整形庭園④を見学、モミジ山・桜園地を眺めながら苑内を散策⑤。旧御涼亭をながめ日本庭園に行く。秋には（11月上旬）、菊花壇展⑥が開催され、見事な菊を鑑賞できる。武蔵野の面影を残す母と子の森⑦は、自然観察フィールドとして使われている。落羽松・メタセコイア・ハンカチノキを眺めると、ほぼ一周したことになる。



苑内を散策する



新宿御苑 新宿門入口



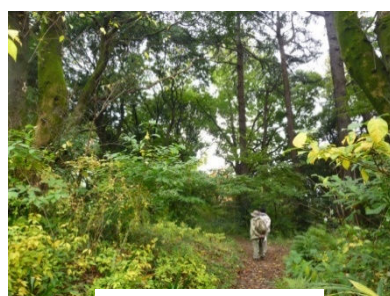
新宿御苑 菊花壇展



イギリス式庭園



フランス式庭園



母と子の森

コースで見られる主な植物等

【木本類】

元々の自然植生（スダジイ・シラカシ・ムクノキ・ミズキ・エノキ等）の他に、庭園や農事試験場の時代に植栽された樹木が、多数ある。

ヒマラヤスギ・モミジバズカケノキ・ラクウショウ・メタセコイア・ユリノキ・ケヤキ・ハンカチノキ・レバノンスギ・イチョウほか

【一言メモ】

クールアイランド効果：新宿御苑の芝生や樹林地などは、大都会のクールアイランド効果に大きく寄与している。御苑内と市街地の気温差は、日中2℃、夜間1～3℃。御苑内の冷氣溜りの厚さは約30mで、御苑内には、ぼう大な量の冷氣塊が形成されている。新宿御苑の芝生と樹林地は、大都会のオアシスとして、自然豊かなみどりの効果だけではなく、大都会のヒートアイランドを緩和する働きがある。